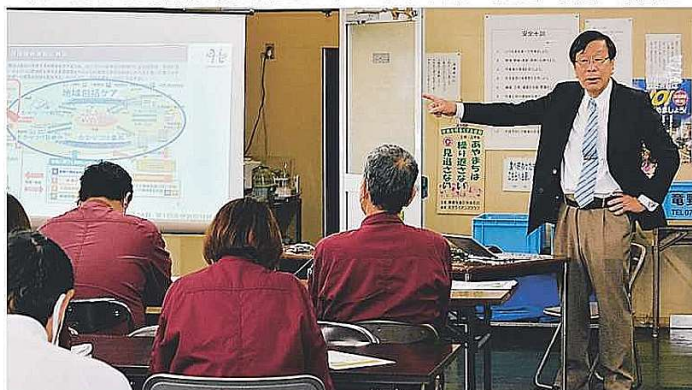


太子町の事業所を訪れ、「従業員の健康管理」をテーマに語った
県立はりま姫路総合医療センターの木下芳一院長＝太子町福地



はりま姫路総合医療センター

院長を企業に「貸し出し」

健康寿命を延ばすポイント解説

太子 県立はりま姫路総合医療センター（姫路市神屋町3）が今春から、木下芳一院長（70）＝消化器内科専門＝が地域に出向き、健康や病気などについて話す事業「院長貸し出し」を始めた。16日には太子町福地の製造設備メーカー「H・R・C」を訪れ、社員約80人を前に「従業員の健康管理」をテーマに語った。

「院長貸し出し」は、市民らに医療を身近に感じ

てもらおうと、木下院長が自ら発案した。地域の集会や企業、学校に出向き、健康、病気、病院経営などについて話す。「貸し出し」は今回で2回目。H・R・Cは社員の健康を守ろうと依頼したという。

木下院長は、病気になる前に自立して生活できる期間を指す「健康寿命」（日本人男性72歳、女性75歳）について説明した。いつまでも健康を維持するには健康寿命を延ばし、平均寿命（男性81歳、女性87歳）との10年ほどの差（不健康な期間）を短縮する必要性があると指摘。「健康寿命を延ばすためには、動脈硬化という血管の病気と、骨や関節、筋肉の病気を予防すること」と力を込めた。

動脈硬化につながる要因として、高血圧や高脂血症、糖尿病、喫煙などを挙げた。動脈硬化は心筋梗塞、心不

全、脳卒中などの原因になることも補足した。

木下院長は、動脈硬化を防ぐ上で重要になるのが「日ごろの健康診断」とし、「健康診断は健康寿命を延ばすための動脈硬化対策に力点が置かれている。診断結果で異常値があった場合、かかりつけ医に相談し、精密検査（2次検査）を受けてほしい。結果を最大限利用して」と訴えた。

H・R・Cの馬場隆社長（61）は「2次検査を受ける大切さが分かった。従業員の健康寿命を延ばすことができるように努めたい」と話した。（西尾和高）